

科目名	解剖学
授業形態	講義(テキストとスライドによる講義)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	田松 裕一

【学習目標】

解剖学は生理学とともに医学の基礎をなす学問であり、人体各部の構造と形態を理解することを目標とする。
超高齢社会において種々の疾患を持った患者と接する上で、歯科衛生士も口腔のみならず全身の構造を理解することが求められる。

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	解剖学総論	人体の部位と区分、断面と方向用語、姿勢	解剖学の基本的な用語と体の基本的部位を説明できる。
2	運動器系(骨学1)	骨の形態と構造、骨の成長と代謝、骨格の構成	骨格の構成と骨の構造・機能を説明できる。
3	運動器系(骨学2)	身体各部の骨の名称、関節の構造	各部の名称(特に頭蓋骨)と関節の構造を説明できる。
4	運動器系(筋学1)	筋の形状・構造、起始・停止	筋の種類・構造と機能を説明できる。
5	運動器系(筋学2)	主な骨格筋・表情筋の名称と働き	主な筋(特に咀嚼筋と表情筋)の名称と働きを説明できる。
6	循環器系1	血液循環と血管の構造、心臓の形態と機能	全身の血液の循環と心臓の形態を説明できる。
7	循環器系2	主な血管系(動静脈)とリンパ管・リンパ節	主な血管系とリンパ系の走行を説明できる。
8	神経系1	総論、中枢神経(脳、脊髄)	神経系の構成と神経組織、中枢神経の働きを説明できる。
9	神経系2	末梢神経(脳神経、脊髄神経、自律神経系)	末梢神経(特に脳神経)と自律神経の走行と働きを説明できる。
10	消化器系	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓・胆嚢、膵臓	消化器系を構成する器官の形態と機能を説明できる。
11	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺の形態と機能	呼吸器系を構成する器官の形態と機能を説明できる。
12	泌尿生殖器系	腎臓、尿管・膀胱・尿道、男性・女性生殖器	泌尿器・生殖器を構成する器官の名称と働きを説明できる。
13	内分泌系	内分泌器官の構造と主なホルモン	主な内分泌器官とホルモンの名称と働きを説明できる。
14	感覚器系	特殊感覚(視覚、平衡聴覚、味覚、嗅覚)、一般感覚(外皮)	感覚器のそれぞれの機能を説明できる。
15	まとめ	まとめと復習	人体の構造と形態を器官系ごとに説明できる。

【評価方法】

定期試験による学科試験(筆記試験)を行う。

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	組織・発生学
授業形態	講義(教科書をベースに、スライド及びプリントで内容を補充して行う)
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間・1単位
授業担当者	千葉 紀香

【学習目標】

歯科の臨床で遭遇する口の中の様々な現象を理解する基盤として、からだや口・歯の構造と発生の基本的事項について学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	細胞と組織	イントロダクション、細胞の構造	組織・発生学と臨床歯科との関連を理解する 細胞の構造を理解する
2	細胞と組織	組織の分類、上皮組織、結合組織の特徴	組織の四大分類と、上皮組織、結合組織の特徴を理解する
3	細胞と組織	軟骨組織、骨組織、筋組織の特徴	軟骨組織、骨組織、筋組織の特徴を理解する
4	発生	発生	発生、特に三胚葉について理解する
5	発生	胎児の発育、顔面と口腔の発生1	胎児期の成長発育の概略、顔面の発生について理解する
6	発生	胎児の発育、顔面と口腔の発生2	胎児期の成長発育の概略、顔面の発生について理解する
7	口腔組織の発生	歯と歯周組織の発生(歯胚)	歯胚の形成から歯と歯周組織の発生について理解する
8	口腔組織	エナメル質の特徴	エナメル質の組成、構造の特徴について理解する
9	口腔組織	象牙質の特徴	象牙質の組成、構造の特徴について理解する
10	口腔組織	歯周組織の特徴	歯周組織の特徴、特にセメント質や歯髄の組成、構造の特徴について理解する

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)
配布プリント

【実務経験】

科目名	生理学・口腔生理学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間・2単位
授業担当者	齋藤 充

【学習目標】

ヒトが生存するために全身および口腔領域の諸器官がどのように働いているのか、またそれらがどのような仕組みで実現されているのかを説明できる。

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生理学序論	生理学とは？生体の構造の階層性、内部環境とホメオスタシス	①生体の構造の階層性を説明できる
2	細胞、血液	細胞の基本的生理機能、血液	①細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる ②血液の構成要素と機能を説明できる ③血液型と輸血を概説できる ④止血、線溶系および出血傾向を概説できる
3	循環(1)	循環系の概要、血管の機能、心臓	①動脈、静脈および毛細血管の構造と役割が説明できる ②肺循環と体循環を説明できる ③リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる
4	循環(2)	心臓、循環の生理	④心臓の構造と機能を概説できる(心筋の特徴、刺激伝導系および心電図を含む) ⑤血圧の調節機能を概説できる
5	呼吸	呼吸、肺気量と換気量、血液中のO2とCO2の運搬、呼吸の調節	①呼吸器の構造と機能を概説できる ②換気、ガス交換および血液ガスの運搬を概説できる ③呼吸の調節を概説できる
6	筋と運動	筋の概説、運動、筋電図	①筋の種類と特徴を説明できる ②骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる
7	神経(1)	神経系の概要、神経系の基本構造、中枢神経系	①神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む) ②中枢神経系の基本構造と機能を概説できる
8	神経(2)	末梢神経系	③末梢神経系の分類、基本構造、機能および各神経の特徴を説明できる④興奮の伝導を概説できる(シナプス伝達を含む) ⑤反射と随意運動を概説できる
9	感覚	感覚の性質と種類、体性感覚の特徴、感覚情報の伝達、感覚野、外皮、特殊感覚器の構造と特徴	①感覚器の構造と機能を概説できる ②体性感覚、内臓感覚および特殊感覚を説明できる
10	消化・吸収	消化と吸収の概要、胃の機能、小腸の機能、大腸の機能	①消化器の基本構造と機能を概説できる(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む)②胃における消化を概説できる ③腸における消化と吸収を概説できる ④排便の仕組みを概説できる
11	排泄	尿の生成	①泌尿器系の構造を概説できる ②尿の生成と体液の調節を概説できる ③排尿の仕組みを概説できる
12	体温	体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動	①体温の調節と変動を概説できる
13	内分泌・生殖	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能、歯・歯周組織・顎顔面とホルモン、ホルモンの作用機序、ホルモンの分泌調節、生殖器、性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌、更年期	①内分泌器の基本構造とホルモンを概説できる ②ホルモンの働きを概説できる ③生殖器系を概説できる ④生殖機能を概説できる
14	咬合と咀嚼・吸啜(1)	下顎位、下顎の運動、顎反射	①下顎の運動を概説できる ②咀嚼の意義を説明できる
15	咬合と咀嚼・吸啜(2)	摂食行動、咀嚼能力、吸啜	③摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる ④吸啜と嘔吐を概説できる
16	嚥下と嘔吐	嚥下、嘔吐	①摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる
17	歯・口腔・顔面の感覚、味覚・嗅覚	口腔顔面領域の神経生理学、口腔顔面痛、口腔顔面領域の触圧覚、口腔顔面領域の温度感覚ほか、口腔感覚とおいしさ、味覚、嗅覚	①歯と口腔粘膜の感覚を概説できる ②味覚器の構造と味覚を説明できる
18	唾液(1)	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分と機能	①唾液腺の位置と構造を説明できる ②唾液の性状と役割を説明できる ③唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる
19	唾液(2)	唾液の性状・成分と機能、唾液と疾患	④唾液中の無機質の作用を説明できる ⑤唾液中の有機質の作用を説明できる
20	発声・発語	発声機構の概要、声の生成、構音のメカニズム、歯・口腔の病態と構音	①発声・構音器官としての口腔を概説できる

【評価方法】

前期授業と後期授業の終了後にそれぞれ実施する定期試験(学科試験)の成績を合算して評価する。
各試験は60点以上を合格とし、不合格となった場合は再試験(各1回)を実施する。

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	生化学(口腔生化学)
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	千葉 紀香

【学習目標】
生命現象の分子機構と、口腔の主要な生化学的特徴を理解する

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	基礎生化学	生体の構成要素	生命の基本となる細胞の構造、細胞小器官の働き、体内の水、生体構成成分について理解する
2		代謝:生体における化学反応	細胞内外で起こる化学反応(消化、吸収、エネルギー生成)について理解する
3		糖質と脂質の代謝	生体内で起こる物質の代謝やエネルギーを作り出す仕組みについて理解する 体内の内部環境が安定に維持される恒常性を理解する
4		タンパク質とアミノ酸の代謝 生体における恒常性の維持	
5	口腔生化学	歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織の構造や成分について理解する
6		硬組織の生化学	歯と骨などの硬組織について理解を深め、主要構成成分であるカルシウムやリン酸の体内での動態などを説明する
7		唾液の生化学	唾液中の無機質、有機質について理解する
8		プラークの生化学	齲蝕あるいは歯周病とプラークの関わりを理解する

【評価方法】
定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版株式会社)、配布プリント

【実務経験】

科目名	口腔解剖学
授業形態	講義(テキストやスライドを用いた講義)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	田松 裕一

【学習目標】
咀嚼・嚥下・発音等の機能を踏まえ、顎顔面口腔領域の諸構造を理解する

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔解剖学総論	顎顔面口腔領域の基本構造	顎顔面口腔領域の基本構造と学習の流れを理解する
2	口腔とは、口腔付近の表面	口腔の部位分け(口腔前庭と固有口腔)と諸構造	口腔内の諸構造の形態について説明できる
3	頭蓋骨の概要1	頭蓋の前面、上面や後面の構造と名称	頭蓋骨を構成する骨の名称と形態を説明できる
4	頭蓋骨の概要2	頭蓋底(特に蝶形骨、側頭骨)に存在する様々な孔	頭蓋骨の内外を連絡する孔や管等を説明できる
5	口腔を構成する骨1	上顎骨、口蓋骨にみられる構造と名称	上顎骨・口蓋骨の形態と各部の名称を説明できる
6	口腔を構成する骨2	下顎骨と舌骨にみられる構造と名称	下顎骨、舌骨の形態と各部の名称を説明できる
7	頭頸部の筋と作用	咀嚼・嚥下に関わる筋の名称と走行、作用、支配神経	表情筋、咀嚼筋、舌骨上・下筋の形態と働きを説明できる
8	顎関節	顎関節の構成と下顎運動	顎関節の構造と下顎運動を説明できる
9	口腔付近に分布する動脈	外頸動脈と顎動脈を中心とした動脈の走行と分布	口腔とその周囲に分布する動脈の走行と名称を説明できる
10	口腔付近の静脈とリンパ系	口腔からの静脈還流とリンパの流れおよび主なリンパ節	口腔から心臓へ戻る血液とリンパの流れを説明できる
11	脳神経、三叉神経	脳神経の分布と主な働き	脳神経の名称と主な働きを説明できる
12	顔面、舌咽、迷走、舌下神経	口腔領域に分布する脳神経	口腔領域に分布する脳神経の名称と働きを説明できる
13	口腔領域の自律神経	脳神経に含まれる副交感神経	唾液を分布する神経について説明できる
14	唾液腺	唾液腺の形態と神経支配	唾液腺の部位、形態、神経支配を説明できる
15	舌	舌の構造、筋、神経支配について	舌の構造、筋および神経支配について説明できる

【評価方法】
定期試験による学科試験(筆記試験)を行い60%以上の得点を合格とする

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯牙解剖
授業形態	講義(テキストやスライドを用いた講義)
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	西谷 佳浩

【学習目標】
歯の構造や種類を正しく覚える

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯の概論・定義、起源、機能、種類と名称	歯の定義、起源、機能を理解し、歯の生歯・形態による分類と名称を学ぶ	歯の定義と構造と名称を習得する
2	歯の記号、歯式、用語	歯の記号、歯式、歯の解剖に用いる方向、形態に関する用語を学ぶ	歯の記号・歯式・用語を習得する
3	歯の形態、表徴、外観内観、支持と固定	歯の近心、遠心を決定に用いるミュールライターの3表徴、歯髄腔、根管の形態と用語を理解する	歯の構造と種類及び機能を習得する
4	永久歯の特徴、上顎切歯	永久歯の特徴、上顎切歯の形態的特徴を学ぶ	永久歯・上顎切歯の特徴を学ぶ
5	下顎切歯、前歯の臨床解剖	下顎切歯の形態的特徴、切歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	下顎切歯の特徴および上下顎切歯の臨床解剖的問題点などを理解する
6	上下顎犬歯、犬歯の臨床解剖	上下顎犬歯の形態的特徴、犬歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	上下顎犬歯の形態的特徴、臨床解剖的問題点を理解する
7	上顎小臼歯	上顎小臼歯の形態的特徴を学ぶ	上顎小臼歯の形態的特徴を理解する
8	下顎小臼歯、小臼歯の臨床解剖	下顎小臼歯の形態的特徴、小臼歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	下顎小臼歯の形態的特徴と上下顎小臼歯の臨床解剖的問題点などを理解する
9	上顎大臼歯	上顎大臼歯の形態的特徴を学ぶ	上顎大臼歯の形態的特徴を理解する
10	下顎大臼歯	下顎大臼歯の形態的特徴を学ぶ	下顎大臼歯の形態的特徴を理解する
11	大臼歯の臨床解剖	大臼歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	上下顎大臼歯の臨床解剖的問題点を理解する
12	乳歯の特徴と永久歯との比較	乳歯と永久歯と比較し、その形態学的特徴を学ぶ	乳歯と永久歯の違いを理解する
13	乳歯の形態学的特徴	各乳歯の形態的特徴を学ぶ	乳歯の形態的特徴を理解する
14	特色のある歯の形態	典型的な形態とは異なる歯について学ぶ	特色ある歯の形態について理解する
15	歯列と咬合	歯列弓、歯牙彎曲の定義と、歯の殖立、対向関係、隣接歯の関係を学ぶ	歯列弓、歯牙彎曲の定義、歯の殖立、対向関係、隣接歯の関係を理解する

【評価方法】
定期試験60%以上の得点

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	栄養指導 I
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	森田 洋子

【学習目標】

栄養学の基礎から応用までを学び患者の生活習慣と栄養状態を考慮した食生活指導やライフステージに応じた専門的な支援への実践力を高める

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	栄養学と歯科衛生士	栄養の概念、栄養と食生活の意義	栄養学および栄養素さらに栄養と食生活の意義を理解する
2	栄養学の種類と働き	糖質の種類とはたらき、脂質の種類と働き	糖質と脂質の種類とはたらきについて理解する
3	栄養学の種類と働き	タンパク質の種類とはたらき、量と質の評価	タンパク質の種類とはたらき、摂取タンパク質の量と質の評価を理解する
4	栄養学の種類と働き	ビタミン、ミネラル、食物繊維の種類とはたらき、水のはたらき	ビタミンの種類とはたらき、ミネラルの種類とはたらきを理解する 食物繊維のはたらき、水のはたらきを理解する
5	栄養素の消化	消化の種類、消化の過程	消化の種類と過程を理解する
6	吸収のメカニズム	糖質、タンパク質の消化・吸収	糖質・タンパク質の吸収を理解する
7	吸収のメカニズム	脂質、ビタミン、ミネラルの消化・吸収	脂質、ビタミン、ミネラルの消化、吸収を理解する
8	健康と栄養	食生活を取り巻く施策	食生活指針、健康増進法、食育基本法等を理解する
9	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準、食品の安全	食事摂取基準、推定エネルギー必要量、食品の安全を理解する
10	食事と食品	食事の基本、食事バランスガイド	食事の基本、食事バランスガイドについて理解する
11	食事バランスガイド	食事バランスガイドを使って自分の食事を見直してみる	自分の食事をバランスガイドを活用して評価する
12	食品群の分類と特徴	食品に含まれる栄養素	食品に含まれる栄養素を理解する
13	食品の機能	食品の機能、表示	食品の機能、食品の表示を理解する
14	食品の調理	食品の物性、摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫	調理の役割や摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫を理解する
15	ライフステージと栄養、栄養ケア・マネジメント	ライフステージ別の栄養 栄養ケア・マネジメント	ライフステージ別の栄養、栄養ケア・マネジメントについて理解する

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

科目名	薬理学・口腔薬理学
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照させながら進める)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	五十嵐 健人

【学習目標】

薬物と生体の相互作用について理解する
代表的な薬物の名称、作用機構、また用いる疾患について理解する
歯科医療で用いられる薬物については特に深い理解を求める

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	総論1	薬物学の概念・薬物療法・用量と作用	薬理学とは何か、薬物の分類について理解する
2	総論2	薬物作用機構、体内動態	薬物がどのように効果を表すかについて理解する
3	ビタミンとホルモン	ビタミン、ホルモンと薬	ビタミン、ホルモンに関する薬について理解する
4	末梢神経と薬	末梢神経系概論・自律神経系関連薬	自律神経系とこれに作用する薬について理解する
5	中枢神経薬	神経系概論・全身麻酔薬・催眠薬	中枢神経系および全身麻酔薬・催眠薬について理解する
6	循環器・腎臓に作用する薬	循環器の疾患および薬物	高血圧など循環系の薬
7	呼吸系と薬/消化器系に作用する薬	呼吸系の疾患および薬物、消化器系に作用する薬	喘息など呼吸系の薬、消化器系に作用する薬について理解する
8	血液と薬・免疫と薬	血液凝固系および止血薬・抗凝固薬	止血薬・抗凝固薬などの薬について理解する
9	悪性腫瘍薬・代謝性疾患治療薬	悪性腫瘍と薬、糖尿病、骨粗鬆症	抗悪性腫瘍薬、糖尿病、骨粗鬆症治療薬について理解する
10	炎症と薬	炎症の機序と抗炎症薬	解熱鎮痛薬などについて理解する
11	鎮痛薬/局所麻酔薬	鎮痛薬、局所麻酔薬	オピオイド鎮痛薬、局所麻酔薬について理解する
12	抗感染症薬	感染症の病原体と対応する薬物	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウィルス薬について理解する
13	消毒薬/う蝕予防薬	消毒の概念・歴史、消毒薬各論	消毒の概念、各種消毒薬について理解する
14	歯内疾患治療薬/歯周疾患治療薬	齶蝕、歯周疾患と薬物	う窩消毒、覆髄、知覚過敏などに関する薬について理解する
15	顎・口腔粘膜疾患と薬	口腔粘膜疾患と薬、歯科領域の薬物副作用、服薬指導、漢方薬	口腔粘膜疾患に対する薬、薬物副作用などと漢方薬について理解する

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」(医歯薬出版株式会社)
その他にプリントなど

【実務経験】

科目名	病理学・口腔病理学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	嶋 香織

【学習目標】

人体における疾患の原因、発生機序、転帰についての基本的な考え方と知識を習得し、疾病の予防、診断、治療などの臨床医療との関連性についても理解する

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	病因論・奇形・遺伝子疾患	疾病の原因(内因と外因)、多因子疾患、素因、奇形の定義、発生について	病気の原因と成り立ち、奇形の定義、成り立ちと遺伝性疾患を学ぶ
2	循環障害	全身の循環障害、血管内容の異常、血流の異常、塞栓症	全身と局所の循環障害を学ぶ
3	退行性病変(代謝疾患)	細胞障害、細胞死、および物質代謝障害	細胞傷害と物質代謝障害の組織形態変化を学ぶ
4	進行性病変(増殖と修復)	細胞の増殖機構、組織修復、肉芽組織、肥大	細胞増殖と組織修復を理解する
5	炎症、免疫	炎症における組織変化、免疫機構、自己免疫疾患	炎症と免疫の成り立ち、経過を理解する
6	腫瘍	腫瘍の定義、発生機構、分類、生物学的性質	腫瘍の定義と発生機構、および性質を学ぶ
7	総論のまとめ、歯の発育異常と損傷	総論のまとめ、歯の形態異常と、物理的、化学的損傷	歯の発育異常とその原因、また損傷の原因と組織形態変化を理解する
8	齲蝕と歯髄の病変	齲蝕の病因論や分類、組織形態変化と象牙質・歯髄複合体の病変	齲蝕と象牙質・歯髄複合体病変の発生と分類、伸展を学ぶ
9	齲蝕続発病変	齲蝕に続発する歯髄炎、根尖性歯周炎、病巣感染	齲蝕続発性病変を理解する
10	病変の治癒	歯科治療に伴う治癒に関わる病理組織学的特徴	各種治療に伴う治癒の病理組織学的特徴を学ぶ
11	口腔粘膜疾患、嚢胞	口腔粘膜疾患の分類と特徴、歯源性および非歯源性嚢胞	口腔粘膜疾患および嚢胞の分類と種類を学ぶ
12	前癌病変と腫瘍	口腔内の前癌病変と口腔癌、腫瘍	口腔内に発生する腫瘍と腫瘍様病変を学ぶ
13	その他の口腔病変	顎骨病変、唾液腺疾患、口腔領域の奇形	顎顔面奇形や顎骨病変、唾液腺疾患等の口腔病変を学ぶ
14	加齢・全身疾患と口腔病変	加齢や全身疾患・症候群と関連する口腔病変	加齢に伴う生理的変化、また全身疾患で口腔病変を伴うものを学ぶ
15	総合演習	質疑応答・問題演習	問題演習、質疑応答を行う事により、総合的な理解を深める

【評価方法】

定期試験により評価する

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	微生物学・口腔微生物学
授業形態	講義(テキストに準拠)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間・2単位
授業担当者	大貝 悠一

【学習目標】
微生物の特徴、免疫機構、および感染症の特徴と予防・治療法について理解する

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	疾病と微生物	病原微生物の発見、感染と感染症	疾病、病原微生物、および感染症の種類と感染経路について理解する
2-7	微生物の病原性	微生物の分類・性状・病原性	微生物の分類、構造、特性、および治療・予防法を理解する
8-12	宿主防御機構と免疫	免疫機構、アレルギー	免疫機構、アレルギー、ワクチンおよびアレルギーについて理解する
13-14	口腔微生物学	口腔細菌叢、プラーク・歯石	口腔細菌叢の成立と遷移、プラーク・歯石の形成機序について理解する
15-17	口腔感染症	齲蝕、歯内感染症、歯周病	口腔感染症の発症に関わる微生物の特性について理解する
18	化学療法	化学療法薬、薬剤耐性微生物	化学療法の特徴と薬剤耐性微生物の問題点について理解する
19	院内感染対策と滅菌・消毒	標準予防策、滅菌と消毒法	院内感染対策の基本的な考えと各滅菌・消毒法の特徴を理解する
20	細菌培養と顕微鏡観察	細菌培養方法、顕微鏡観察方法	微生物の培養、観察方法を理解する

【評価方法】
定期試験60%以上の得点

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

科目名	看護概論
授業形態	講義
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	松成 裕子・李 慧瑛・五反田 知美・緒方 めぐみ・上坂 博子・鈴木 百代・香取 遥・荒田 友紀

【学習目標】
看護の概念を理解し、看護の機能・役割・活動について学ぶ
看護における対象に応じた接し方、方法について学習する
看護に必要な観察技術について学ぶ
救急時の看護について理解し、その対応の方法を学習する
看護を学ぶことによって、歯科衛生士の役割について考え、その対応に活用することができる
吸引について(口腔内、気管内)、電法について

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	看護の概念	看護の定義、人間とは、健康とは、看護の対象、看護の役割、歯科衛生士とは、看護技術とは、人間の発達段階、発達段階とその特徴	看護の目的を理解し、看護の役割についてわかる 歯科衛生士の役割について考えることができる 看護の対象を理解する
2	対象の理解	発達段階に応じた接し方、看護における看護過程とは、観察、コミュニケーションによる情報収集	対象に応じた接し方がわかる 看護過程の概要を理解し、情報収集のための観察、コミュニケーションの方法を知る
3	観察の技術 バイタルサインズ1	体温、呼吸、脈拍、血圧とは、正常な値、それぞれの異常、電法	バイタルサインの測定意義を理解し、正しく測定できる
4	観察の技術 バイタルサインズ2	バイタルサインの測定方法	バイタルサインが正しく測定できる
5	看護技術・看護過程	観察とコミュニケーションによる情報収集の発展	看護過程の概要を理解し、情報収集のための観察、コミュニケーションの方法が実践できる
6	救急時の看護	診療室における救急法について、心肺蘇生法について、一次救命処置、AED、心電図について、神経性ショック、過換気症候群	緊急なことが生じた場合には、応援要請ができる 心電図、心肺蘇生法について理解し、一次救命処置およびAEDの使い方がわかる 緊急に対応が必要な症状について理解し、その対応の方法がわかる
7	その他の看護技術	電法について、吸引について(口腔内、気管内)、吸入について	電法について、実施方法を理解する 口腔内吸引について、実施方法を理解する 酸素吸入の方法について理解する
8	その他の看護技術(技術演習)	電法について、吸引について(口腔内、気管内)、吸入について	電法について、実施できる 口腔内吸引について、実施できる 酸素吸入の方法について理解し、気管内吸引の対応の方法がわかる
9	その他の看護技術	これまでの看護技術のまとめ 吸引法、蘇生法の演習	これまでの講義内容から身体の機能の異常について理解する それらの異常な症状について理解し、その対応の方法がわかる
10	看護の役割	チーム医療と歯科外来での看護	チーム医療における看護の役割、入院施設をもつ歯科外来の役割について理解する
11	歯科外来での看護①	歯科外来での看護①	狭心症、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等を有する患者の歯科治療時における注意点について理解する
12	歯科外来での看護②	歯科外来での看護②	小児・成人別における看護、口唇口蓋裂児の支援について理解する
13	入院患者への看護	入院を要する患者の看護	バイタルサインおよび全身状態の観察の実際、院内感染対策、摂食嚥下について理解する
14	救急時の看護	救急時の看護	患者急変時の対応の仕方について理解する
15	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉における看護	在宅医療の必要性、多職種連携の必要性について理解する

【評価方法】
最終段階では、記述式試験により80％で評価する
技術演習における実施手技により到達度を20％で評価する
随時、課題と質問によって、理解度を評価し、進める
定期試験における学科試験を行う

【参考図書等】
「歯科衛生士のための看護学大意(第4版)」全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会編(医歯薬出版株式会社)
資料は随時提供する

【実務経験】
本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

科目名	臨床検査法
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照させながら進める)
開講時期	2年前期
時間数・単位	20時間・1単位
授業担当者	山田 拓人

【学習目標】
異常値の出るメカニズムと疾患を理解し、治療に際してのサポートが出来るようになる

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	臨床検査概論	データの取り扱いなどの概略	データの取り扱いを理解する
2	生理検査	バイタルサイン、生理検査、検体検査	バイタルサインとは何か、生理検査、検体検査について理解する
3	尿検査	腎機能、尿の生成と異常値の起こるしくみ	腎機能、尿の生成と異常の起こるしくみを理解する
4	血液検査	血球の種類・働き、血液型について	血球の種類・働き、血液型検査法を理解する
5	血液検査	貧血、出血性素因の起こるしくみとその検査	貧血、出血性素因の起こるしくみと、検査法を理解する
6	感染症検査	感染の起こるしくみとその検査、院内感染予防	感染症と院内感染予防について理解する
7	肝機能検査	肝機能障害の起こるしくみとその検査	肝機能障害とその検査法を理解する
8	糖尿病検査	糖尿病のおこるしくみとその検査	糖尿病の種類と糖尿病の検査法を理解する
9	病理検査、口腔領域の検査	病理検査の特殊性について、齶蝕活動性試験の意義	病理検査とその方法について理解する
10	総まとめ	国家試験に対応した演習	国家試験に向けて理解を深める

【評価方法】
試験、小テスト、レポートなど

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「臨床検査」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅰ
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	林川 貴志

【学習目標】

口腔の健康とその意義、全身の健康につながる口腔の機能等と歯科衛生士について理解する

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔衛生学の概要	口腔衛生学の意義、口腔と健康	口腔衛生学の全体像と歴史を理解して、口の健康が全身の健康につながることを理解する
2	歯科疾患予防、口腔の機能	予防の3相5段階、歯・口腔の機能	第1次、第2次、第3次予防、口腔のさまざまな機能を理解する
3	歯・口の発育と変化	歯の成長	歯の誕生から永久歯列完成までのプロセスを学ぶ
4	歯・口の発育と変化	歯の喪失、形成期の栄養、形成異常	歯の喪失に関するデータの理解、歯・口腔の異常を理解する
5	口腔環境	唾液のはたらき、口腔内常在微生物	唾液の働きを理解して、口腔内微生物の分布、病原性を学ぶ
6	歯、口腔の不潔	プラーク(歯垢)	プラークの形成機序、為害作用
7	歯、口腔の不潔	歯石	歯石の種類・組成・形成機序を知り、その病原性を理解する
8	歯、口腔の不潔 口腔と全身の関係	着色、舌苔 口腔疾患と全身疾患	着色性沈着物、舌苔の分類・成分を学ぶ

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生士テキスト「口腔衛生学ー口腔保健統計を含むー(第4版)」(学建書院)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅱ
授業形態	講義(教科書を中心に講義する)
開講時期	2年前期
時間数・単位	20時間・1単位
授業担当者	玉木 直文

【学習目標】

う蝕およびその予防法についての基本的な事項を理解し、専門職として臨床および保健の現場で活躍できる基礎を身につける

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	I う蝕の現状と発症機序	う蝕罹患の現状、う蝕の発症機序、診断基準	う蝕罹患の現状と、発生機序について理解する
2	II う蝕リスク診断法	う蝕活動性試験の考え方、種類、結果の活用方法	う蝕リスクの診断法について理解する
3	III 予防方法	第一次、第二次、第三次予防と、歯科に特異的な具体的事項	予防医学レベルの既念について理解する
4-5	IV フッ素の分布と毒性	自然界でのフッ素の分布と代謝、毒性、歯牙フッ素症(斑状歯)	フッ素の特性について理解する
6-7	V フッ化物応用法	フッ素とう蝕の関係、フッ化物の予防機序、フッ素の応用方法、フッ化物応用の世界の状況	フッ化物を応用した、う蝕の予防法について理解する

【評価方法】

定期試験60%以上の得点

【参考図書等】

歯科衛生士テキスト「口腔衛生学ー口腔保健統計を含むー(第4版)」(学建書院)
新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅲ
授業形態	講義
開講時期	1年後期・2年前期
時間数・単位	26時間・1単位
授業担当者	林川 貴志

【学習目標】

学校歯科保健・産業歯科保健・成人歯科保健活動の知識を深め、歯科衛生士としての関わりを学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	地域口腔保健活動とは	地域口腔保健活動とは、WHO・ヘルスプロモーション	地域口腔保健活動の意義を十分理解して、活動の進め方・目標を知る
2	ライフステージ別の歯科口腔保健の概要	ライフステージ別の歯科口腔保健の概要、問題解決のプロセス、歯科衛生士の役割	口腔保健活動が何を指すのかを知り、ライフステージごとの保健指導について理解する そしてこの活動における歯科衛生士の役割について学習
3	地域口腔保健のあゆみ	歴史、8020運動、保健所と保健センター	戦後の歯科保健施策の推移を学ぶ 地域保健を実現するための行政システムを知る
4	8020運動、健康日本21(2次)、健康増進法	成り立ち、現状、将来像	それぞれの関係を理解して、活動による成果、今後の計画を学習する
5	学校歯科保健①	学校保健の組織構造、学校病について	学校保健の基本的知識を深め歯科関係者がどのようにかわるのかを知る 学校病の内容を学習
6	学校歯科保健②	学校保健関係者について	保健活動に従事する常勤学校職員を知る 非常勤学校職員としての学校歯科医の役割を学ぶ
7	学校歯科保健③	学校歯科健康診断、事後措置、健康相談	学校における健診のシステム、内容を熟知する 健診後の対応が大切であることを理解する
8	学校歯科保健④	学校保健の現状、歯科衛生士の役割	子供たちの健康をデータで理解し、その中で歯科領域の位置づけを知る 歯科衛生士がどのような活動をすべきか考える
9	産業歯科保健①	産業歯科保健の概要、法律、特異性	歴史、関連法律について学び、データを基に社会においていかに大切な活動であるかを知る
10	産業歯科保健②	職業性(歯科)疾患の各論、酸蝕症	職業性疾患についてまず学び、職業性歯科疾患について深堀して理解を深める
11	産業歯科保健③	産業(歯科)保健対策および保健管理	管理体制、産業(歯科)医、衛生管理者について理解する
12	産業歯科保健④	事業所歯科健康診断、職域での口腔健康管理	職域での歯科健康診断にはどのようなものがあるか、その重要性について理解する
13	まとめ	健康日本21(2次)、健康増進法、生活習慣病	現在の歯科保健状況、今後の見通し、目標について理解する

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅳ
授業形態	講義
開講時期	2年後期
時間数・単位	12時間・1単位(新中須先生の分と合わせて1単位)
授業担当者	門松 伸一

【学習目標】
高齢者歯科保健・高齢者保健事業の知識を深め、歯科衛生士としての関わりを学ぶ

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	成人歯科保健の概要	成人歯科保健の概要	成人歯科保健の概要と歯周病検診、特定健康診査・特定保健指導を理解する
2	老人歯科保健の概要	高齢者歯科保健の概要	高齢者の特徴の把握をし、高齢者歯科保健の概要について知る
3	医療制度と高齢者歯科保健	後期高齢者医療制度と高齢者歯科保健	後期高齢者医療制度について理解し、高齢者歯科保健の現場活動について知識を得る
4	介護予防・介護保険における歯科保健	介護予防・介護保険における高齢者歯科保健	介護予防・介護保険における歯科の関わりの重要性について学ぶ
5	口腔機能低下症	オーラルフレイルと口腔機能低下症	オーラルフレイル、口腔機能低下症と全身のフレイルの関係とその対策について学ぶ
6	障害者の歯科保健	障害者・医療的ケア児の歯科保健	障害者・医療的ケア児の歯科保健と歯科医療について理解する

【評価方法】
定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】
歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－（第4版）」(学建書院)
「のぼそう健康寿命」辻一郎著(岩波アクティブ新書)
「口腔ケア入門」(鹿児島県歯科医師会)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅳ
授業形態	講義
開講時期	3年前期
時間数・単位	10時間・1単位(大久保先生の分と合わせて1単位)
授業担当者	新中須 真奈

【学習目標】

地域歯科保健活動の概念を理解し、その活動の基盤となる法律や、母子歯科保健の意義と歯科保健指導の進め方について知識を習得する

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	地域歯科保健活動	地域歯科保健活動の基礎知識	地域歯科保健の特徴を把握し、地域保健における歯科衛生士の役割を理解する
2	地域における口腔保健業務	地域における口腔保健業務と関連する法律	地域保健・健康増進対策の法体系と歯科口腔保健法について理解する
3	母子歯科保健	母子歯科保健の意義と妊産婦の歯科保健指導	母子歯科保健の意義と、妊産婦の歯科保健指導を理解する
4	1歳6ヶ月児健康診査、3歳児健康診査	1歳6ヶ月児、3歳児健康診査と乳幼児期の歯科保健指導	1歳6ヶ月児・3歳児健康診査の意義と、乳幼児期の歯科保健指導を理解する
5	災害時の歯科保健と講義のまとめ	災害時の歯科保健と講義のまとめ	災害時の歯科保健の基礎的知識を身につける

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－（第4版）」(学建書院)
配布物プリント(歯科保健データ等)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科衛生統計学
授業形態	講義・演習
開講時期	3年前期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	星野 行孝

【学習目標】
歯科衛生士として基本的な統計の知識を身につけるとともに、各種統計資料を正しく理解することができる

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	保健情報と保健統計	統計	保健情報と保健統計について理解する
2	保健情報と疫学①	疫学	保健情報と疫学について理解する
3	疫学②	スクリーニング	スクリーニングについて理解する
4	歯科疾患の指数	指数	歯科疾患指数について理解する
5	保健情報の分析手順	情報収集、調査	保健情報の情報収集、調査の仕方について理解する
6	保健統計の方法	演習	統計を演習問題を通して理解する
7	保健情報の分析演習	演習	統計を演習問題を通して理解する
8	情報の保健と倫理	倫理	倫理について理解する

【評価方法】
定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	衛生学・公衆衛生学
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	30時間・1単位
授業担当者	安藤 哲夫

【学習目標】

公衆衛生学の主要な仕組み・仕様を知り、それを実際に適応・使用できる
具体的には、新聞報道などでの公衆衛生および健康問題を理解することが出来、さらに「自分なら」の対応法を挙げることが出来るのが目標である

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	衛生・公衆衛生学総論Ⅰ	健康の概念 健康とは、生活習慣と健康、PHCとHP	健康の概念を知り、健康獲得にとってPHCとHPが大切であることを知る
2	衛生学・公衆衛生学総論Ⅱ	予防医学の概念 疾病の自然史と予防法の適用	一次予防・二次予防・三次予防の内容を知り、健康の維持・管理を知る
3	疫学	疫学の定義および概要 疫学とは 異常の発生 異常の指標	疫学によって何が分かるか、逆に疫学の限界とは何かを知る
4	疫学	疫学の方法 記述疫学 分析疫学 介入研究	何を目的に疫学の方法を選択するのかを知る
5	人口	人口の動向 人口動態統計 生命表	人口構造を知り、公衆衛生の向上のために何が必要かを知る
6	健康と環境	環境の概念 物理化学的環境要因 生物学的環境要因	環境要因と健康との関わりを知って、健康増進法を探る
7	健康と環境	地球環境の変化と健康への影響 地球温暖化 酸性雨 オゾン層破壊	人間活動が地球環境にどのように影響しているのかを知る
8	健康と環境	地域環境の変化と健康への影響 四大公害 典型七公害	過去にわが国で発生した公害の歴史を知り、同じ過ちを後世に残さない方法を探る
9	感染症	感染症の成り立ち 感染症の予防 感染症の動向	感染症成立の三要因を知り、予防法の基本を知る
10	食品と健康	食中毒 栄養と健康	食品衛生としての食中毒の動向を知り、さらに健康づくりとしての食生活のあり方を知る
11	地域保健・公衆衛生	地域保健の組織 地域保健の新しい概念 地域保健活動の進め方	地域保健行政としての公衆衛生活動の現状を知り、問題点を知る
12	地域保健・母子保健	母子保健の意義および概要 母子保健 母子歯科保健	地域保健行政としての母子保健活動の現状を知り、問題点を知る
13	地域保健・成人/老人保健・生活習慣病	成人/老人保健の意義 ゴールドプラン21 介護保険	地域保健行政としての成人/老人保健活動の現状を知り、問題点を知る
14	産業保健	産業保健の意義 職業病 産業保健活動	労働者の健康管理の現状を知り、問題点を知る
15	学校保健・精神保健・国際保健	学校保健の意義 精神保健の意義 国際保健の意義	学校/精神/国際保健活動の現状を知り、問題点を知る

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

科目名	衛生行政
授業形態	講義
開講時期	3年後期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	鍛冶屋 亮彦

【学習目標】
地域社会において、歯科保健医療の業務に従事するものとして、必要な知識を学ぶ

【授業計画】			
回	授業題目	授業内容	到達目標
1	医療制度と歯科衛生士	歯科衛生士と医療制度のかかわりについて	歯科衛生行政に関して、目的、特色、組織について理解し、歯科衛生士の専門性についても理解する
2	医療の動向	我が国の統計制度と国民の健康状態について	我が国の統計制度の分類と国民の健康状態、受診状況、医療施設・従事者の現状について理解する
3	歯科衛生士法①	歯科衛生士の沿革、身分取得について	歯科衛生士の沿革、歯科衛生士法の目的・定義・取得と喪失について理解する
4	歯科衛生士法②	歯科衛生士の業務、義務について	歯科衛生士の業務と義務について演習問題を通して深く理解する
5	歯科衛生士に関連する医療関係者の身分に関する法律と医療法	歯科衛生士に関係する医療従事者との関わりと医療法について	歯科衛生士が関わる医療従事者と医療法について理解する
6	薬事に関連する法規	医薬品を規定する法律と医薬品等の分類について	薬機法、医薬品の分類について理解する
7	地域保健・感染症・食品安全・食育に関する法律と地域包括ケアシステム	地域保健、感染症、食品安全、食育に関する法律と組織についてと地域包括ケアシステムについて	地域保健法、健康増進法、母子保健法、学校保健安全法、口腔保健法等について深く理解する
8	社会保障と講義のまとめ	講義のまとめと社会保障について	社会保障について深く理解する 全講義のまとめ

【評価方法】
定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】
本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	社会福祉・社会保険・社会保障
授業形態	講義
開講時期	3年前期
時間数・単位	15時間・1単位
授業担当者	水流 純大

【学習目標】

現代社会における、社会保険の成り立ちと内容・役割、社会福祉の制度と役割を学ぶ

【授業計画】

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要を理解する 特に、社会保障と社会保険、社会福祉の関係性を理解する
2	社会保険制度の概要	社会保険制度の概要	社会保険制度の仕組み、種類等を理解する
3	医療保険制度の概要①	医療保険制度の概要①	医療制度改革、医療保険の種類等について理解する
4	医療保険制度の概要②	医療保険制度の概要②	健康保健法、国民健康保健法、審査支払機関等について理解する
5	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要	介護保険制度の仕組み、サービス内容等について理解する
6	社会福祉制度の概要	社会福祉制度の概要	社会福祉の実施体制と財政、利用者負担の仕組み等を理解する
7	社会福祉制度の内容	生活保護、障害者福祉、児童福祉の概要	生活保護制度、障害者福祉、児童福祉等についてその概要を理解する
8	社会福祉・社会保険・社会保障制度のまとめ	社会福祉・社会保険・社会保障制度のまとめ	これまでの講義を振り返って、重要ポイントの復習とまとめを行う

【評価方法】

学科試験を行う(100点満点で60点以上を合格とする)

【参考図書等】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】